



「環境の時代」と言われる21世紀を迎えました。日本では循環型社会形成推進基本法が4月より施行されるなど、20世紀の資源消費型社会を、資源循環型社会に転換し、実現することが待たなしの状況になってきております。企業はもはや「地球との共生」を基本とした持続的発展なくして存続できません。エレクトロニクス産業においては、今まで以上に製品の「軽薄短小」が要求されるばかりでなく、資材購入から製品の廃棄まで製品のライフサイクル全般にわたって地球環境に配慮し、環境負荷の少ない製品を提供していく必要があります。

TDKは、今まで以上に環境への配慮を徹底していくため、2000年4月から2004年3月までの新中期計画「Exciting108」の中で、基本方針のひとつに「Zero Emissionへの挑戦」を掲げ、企業活動全般にわたって環境保全活動に取り組むことを表明しました。その骨子としては、1 資源の枯渇防止につながるゼロエミッション活動の推進、2 地球温暖化防止に貢献する省エネルギー活動の推進、3 健康で明るい生活を送るための有害物質の削減、を主眼とし、具体的中期目標を設定し、推進中です。新中期計画初年度にあたる2000年度の主な成果として、廃棄物を出さないクローズドシステム導入や再資源化の推進による埋立廃棄物(処理業者委託量)の削減、鉛フリーはんだへの技術対応完了などの成果を挙げることができました。今後、クローズドシステムの横展開や、鉛フリー製品の開発と顧客への承認活動、省エネルギーの推進強化等を実施し、TDKが環境先進企業としてふさわしい活動ができるよう取り組んでいきます。

また、こうした環境への取り組みが企業経営の一環として行なえるよう、2001年4月より環境会計の試験導入を開始し、環境面での支出対効果を明確にしていきます。

本報告書は、2000年度のTDKにおける環境活動の内容を取りまとめたものです。本報告書をお読みいただくことにより、TDKの環境への取り組みをご理解いただき、加えてTDKの今後の環境活動の質と効果を高め、TDKの企業価値を高めていくためにも、忌憚のないご意見をお聞かせいただければ幸いです。

TDK株式会社
代表取締役社長

澤 部 肇